



子育て通信

6 カナリヤ

発行 第284号 2019. 6. 1.

時津町子育て支援センター『こぼとの家』

長崎県西時津郷時津町西時津郷 1000-10

支援センター TEL095-882-7455

保育園 TEL095-882-4559

FAX095-882-4910

ホームページ

<http://www.togitsukobato.jp>

～母の日製作をしました～



～ママとたくさん触れ合いました～



『あめのおと』

あめのおとって
くきに しとしと
いけに ぼちよぼちよ
ほどうに ぴちぴち
かきに ぱらぱら
とたんの やねには
たんたか たんたか

おもしろいんだけど
でも
あんなに たかい たかい
てんから ふって くる
とちゅうの おとは
ああ どんなだるう

時津こぼと保育園

園長 嘉村 望

「詩人 まどみらお100の言葉」

著：まど みらお

雨の日が続くと、大人にとっては洗濯物が乾かなかったり、少し憂鬱な気持ちになります。子どもたちは、雨の日も水たまりに入りびちゃびちゃと音をたてて喜んだり、雨が落ちて物に当たる色々な音を楽しんでいる姿が見られます。

「ポタポタ」「ポツポツ」「しとしと」「パラパラ」「ぼたりぼたり」「ザーザー」など雨の音をオノマトペとして表現する音あそびをするのも楽しいですね。

また、雨の中、傘をさしてお散歩をしていると草花に雨のしずくが光って美しい姿を見ることがもできます。

子どもたちと一緒に雨の季節を楽しみたいものですね。

子どもの遊びどう関わる？

「子どもとどう遊んであげたらいいのか・・・？」と悩む方も多いと思います。子どもにとって“遊び”は今後の成長には欠かせないものです。一番近くにいる大人がどうやって関わるのかで子どもは遊び上手にもなっていくます。



乳児期

(感覚あそび)

見る・聞く・触るなどによって感覚と理解力を身に着ける

*ガラガラ、オルゴール、おしゃぶりなど

(運動遊び)

体を動かして運動能力を身に着ける

*ボール遊び、滑り台など

1～2歳から

新しいものを見たり聞いたりして、鑑賞力や考える力を身に着ける

*絵本、紙芝居など

2歳ごろから

生活の中で、目にしたことを模倣して、想像力や生活適応能力を身に着ける

*ままごとなどのごっこ遊び、人形遊び

2～3歳から

自分で工夫して、物を組み合わせ、創造する力を身に着ける

*積み木、お絵かき、折り紙など



一人で楽しむ遊びと他者と関わる遊び

(他者と関わる遊びのメリット)

他者に関心を向ける、他者を見る、他者に近づく、他者の真似をするなど、コミュニケーションや言葉の発達に重要な力を育てることができます。

(一人で楽しむ遊びのメリット)

一人遊びも、一人で穏やかに過ごすためには必要です。例えば、疲れた時にちょっとリラックスするとき、病院などで待つときなど、いろいろな場面で「一人でできる遊び」も必要となります。

一人遊びを叱ったり、無理にやめさせる必要はありません。一人で楽しめる遊びも育てつつ、他者と関わる遊びもバランスよく育てていきましょう。いろいろなレパートリーがあるほうが良いですね。

親子での関わりを楽しむ遊び いろいろ



(身体を使った遊び)

- ・抱っこしてぐるぐる・たかいたかい
 - ・シーソー遊び ・くすぐり
 - ・ジャンプ ・トランポリン 等
- 嫌がる時はやめておきましょうね。

(やりとり遊び)

- ・一本橋こちょこちょ
- ・いないいないばあ
- ・にらめっこ 等

(おもちゃを使った遊び)

- ・風船飛ばし
- ・シャボン玉
- ・ボール転がし
- ・ボーリング 等

繰り返しのある歌や同じパターンの遊びの経験をすることで興味を持ちやすくなります。

子どもとの遊びがうまくいくコツ

*一人で集中して遊んでいる時は…



一人で集中している時に、急に大人が遊びに入ってきたら子どもはびっくり！

子どもは遊びの邪魔をされたと感じて腹が立ちやうときも…。

まずは、“大人と一緒に遊ぶと楽しいな”と子どもが感じる事が重要です。子どもが一人遊びに少し飽きてきたタイミングや、次の遊びを探しているときなどを狙いましょう。

おもちゃに興味を持ってもらうコツ

おもちゃだけ渡されてもどうやって遊んだらいいのか子どもはわかりません

最初は…

大人がおもちゃの使い方や遊び方を子どもに見せる



大人が楽しんでいる様子を子どもが見る・近づいてくる



大人と一緒にやってみる

お父さんやお母さんがとっても楽しそうに遊んでいると子どもは気になって“やってみたい”と思います

大人の誘う遊びに子どもが興味を示さない時は…

子どもに大人の真似をさせるのではなく、子どもの真似を大人がやってみましょう

「自分（子）が動くと大人も動くぞ！」と思うと「次はこんな風に動いたら大人はどうするかな？」と相手の動きを期待したり、自ら関わってみようとするようになります。大人の動きに気が付くまでに、少し時間がかかる子どももいますが、あきらめずにやってみましょう。



遊びの中で子どもの言葉をはぐくむために

子どもの中にはおしゃべりが苦手な子どももいるかもしれません。

子どもが興味を持っていること・していることに言葉をそえましょう。

子どもに声をかけるときに、大人が伝えたい言葉や教えたい言葉ばかりを伝えていませんか？まずは、子どもが興味を持っているものの名前や、子どもがしている行動を大人が言葉にしてみましょう。反応がなくても繰り返してみましょう。

子どもの言葉をはぐくむ言葉かけのしかた

言葉かけは「ゆっくり」「はっきり」「みじかく」が基本！

まだ聞く力が育っていない子どもの場合には、大人が早口で話したり長い文章ではなしたりすると、うまく聞き取ることができない場合があります。

例えば…2語文をうまく話せるようになってた子どもに「おもちゃを貸してほしい時には『おもちゃ貸して』って友達にいったらいいのよ」と一度に長い文章を伝えると、どこが自分の言うべきセリフか理解することが難しいかもしれません。そのような場合には、子どもが友達のおもちゃを貸して欲しそうなときに、横でそっと大人が「おもちゃかして」と言葉を添えてあげましょう。真似て言えたらたっぷりとほめてあげましょう！

